



上尾市立大谷中学校だより

えごの木

令和6年 卒業式号

〒362-0045 上尾市向山 4-10

TEL (048) 781-9080

FAX (048) 726-3959

<https://www.city.ageo.lg.jp/>

[site/oya-juniorhighschool/](https://www.city.ageo.lg.jp/site/oya-juniorhighschool/)



QRコード

上尾市立大谷中学校 学校教育目標

明るく、夢を持ち、たくましく生きる生徒

目指す生徒像 知「自ら考え、自ら学ぶ生徒」 徳「心豊かに実践する生徒」 体「たくましい生徒」

校長 酒井 一昭

大谷中のキャッチフレーズ

まじめ けじめ ゆめ

「令和5年度第39回卒業証書授与式 校長式辞」

令和6年3月15日（金）、上尾市立大谷中学校第39回卒業式が無事に執り行われました。感染症等による制限がない形では本当に久しぶりです。

保護者の皆さまのご理解・ご協力いただき、ご臨席を賜り、挙行できましたことを改めて心より感謝申し上げます。

卒業生112名は、新たな進路先に向けて期待と不安を胸に抱きながら新しい生活へと踏み出します。卒業後も豊かで実り多い日々を過ごしてもらいたいと願っています。

卒業式での校長式辞を学校通信より抜粋した形で紹介いたします。



~~~~~  
厳しい寒さを乗り越え、校庭の木々にも新しい芽が姿を現し、春の息吹を感じる今日の良き日、上尾市立大谷中学校 第39回 卒業証書授与式 を晴れやかに挙行できますことを、心より感謝申し上げます



卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。先程、中学校の教育課程を

終えたことを証明する卒業証書をお渡ししました。卒業証書を受け取るみなさんの顔からは、中学校3年間、義務教育9年間の学びを得て、立派に成長した自信と誇りが感じられました。

巣立ち行く 112名のみなさんは、本校第三十九回卒業生として、大谷中学校の歴史に確かな足跡を残してくれました。心より敬意を表し、賛辞を送ります。



みなさんとは2年間、学校生活を共にしました。

みなさんと出会った昨年度、印象深く思い出されるのは鎌倉校外学習です。上尾駅で班別にチェックを受け、長い時間電車に乗り、到着した鎌倉で計画した見学地をめぐる班別行動が始まりました。予定通りであったり、アクシデントがあったり様々でした。鎌倉からの帰りの電車では事故のため大変な思いをしたことを思い出します。

そして今年度、コロナによる規制も解除されながらも気を付けながら修学旅行や体育祭、部活動の市内予選、県大会、コンクールなど、たくさんの思い出をみなさんと共有できました。みなさんは、今できること、やらなければならないことに懸命に取り組んでくれました。最高学年としての責任感や団結力、物事に対して真剣に、一生懸命に取り組む姿勢を見せてくれました。

大谷中学校の特色ある活動「学校歯科保健」には、小学校から「フッ化物洗口」や「歯磨き」「しんそう体操」に普段から当たり前のように取り組んでくれました。素晴らしかったです。

ところでみなさんは、松下幸之助さんを知っていますか。初めて聞いたという人も多いと思いますが、電機メーカーのパナソニックの創業者です。23歳の時、「松下電気器具製作所」を立ち上げ、現在の「パナソニック」を一代で築き上げた「経営の神様」ともいわれている人です。

社長時代、幸之助さんは、入社試験の面接の最後に、必ず、ある質問をしたそうです。

その質問とは、「あなたは、運がいいですか。」というものです。みなさんならどう答えますか。この質問に、「運が悪い」と答えた人は、どれだけ優秀な人でも採用しなかったそうです。

幸之助さん自身も、「私は運のいい人間だ」と言い続けました。「若いときに海に落ちて、溺れそうになったけど、夏だったから助かった」「自転車に乗っていたら車にぶつかって線路に投げ出されたけど、電車が2メートル前で止まってくれたおかげで、命を取り留めた」など、普通の人であれば、不幸な出来事として捉える話を、「運がよかった」エピソードとして話していたのです。

晩年には「あなたは、なぜ成功したのだと思いますか」と聞かれ、次の三つをあげています。

「家が貧乏だった、小学校しか行っていない、体が弱かった」

この三つは、普通の人なら、できない理由に使います。「貧乏だから」「学歴がないから」「体が弱いからうまくいかない」と言い訳のように言ってもおかしくないはずですが、でも、幸之助さんは「貧しいから必死になって働いた。学歴がないからすべての人から学ぼうとした。体が弱かったから、人に任せて人を育てることができた。」と語っています。

幸之助さんは「運がいい」ということを、次々と幸運な出来事が起こるということではなく、どんな出来事に対しても、たとえ、それが客観的に見て不幸な出来事だったとしても自分の意志で、プラスに受け止められる力、ポジティブに捉えることができる力だと、考えていたのではないのでしょうか。だから、入社試験ではポジティブな人材かどうかを見極めるために「あなたは、運がいいですか。」という質問をしたのだと思います。



新型コロナウイルスに振り回された3年間は、みなさんに我慢をしてもらうことがたくさんありました。「運が悪かった」と捉えられなくもありません。でも、みなさんが我慢してくれたことは、例えば、家族や高齢者の感染予防のためだったり、医療従事者の負担軽減であったり、直接ではないにしても何らかの貢献につながったはずですが、また、みなさんにとってこれまでの当たり前が、実はとても素晴らしいもので大切なものだったということに気付くこともできました。

実は、「運がいい人」「悪い人」というのは、存在せず、「自分は、運がいい」と思っている人と「自分は、運が悪い」と思っている人がいるだけなのではないかと思っています。

「自分は運がいい」と思える人は、あらゆることを、ポジティブに考えられる人、うまくいったときは、「おかげさま」と周りの人に感謝できる人、うまくいかなかったときには、「うまくいかないことがわかった。どうしたらうまくいくのだろう」と次につながる考え方ができる人のことです。

これからの人生、つらいことや心が折れてしまいそうなこともあるでしょう。でもそんなときも、「運が悪い」とあきらめるのではなく、「この出来事は、一体、私に何を学ばせようとしているのだろう」と考えてみてはどうでしょうか。あなたの心次第で、運のいい人にもなれるし、運の悪い人にもなる人にもなれるのです。皆さんには、ぜひ幸運な人生を歩んでほしいと願っています。

改めて、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、喜びもひとしおと存じます。心より、お祝い申し上げます。この3年間、教職員一丸となって卒業生の成長を見守りつつ、精一杯努力を重ねたつもりではありますが、時には至らない点もあったかと思っています。それにもかかわらず本校に対しましてご理解ご協力をいただいたこと、心よりお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

さあ、卒業生のみなさん、次の新たなステップに向かって、胸を張って、笑顔で旅立ってください。

最後に、大谷中学校の学校教育目標「明るく、夢を持ち、たくましく生きる生徒」に成長した皆さんに幸多かれ、と改めて願いを込め、式辞とさせていただきます。







3年生が受験を終え、いろいろな取り組みを企画して実施していました。左の写真は「感謝の料理」というタイトルで、家庭科の実習で身につけた腕前で、調理をしておいしいものを作って食べていました。みんな笑顔があふれていました。

3月7日、3年生がマイアルバムの発表会を行っている様子です。一人ひとりが自分を振り返り、保護者の方に感謝する時間です。たくさんの保護者の方が見に来てくれていました。美術の作品も展示していました。



3月8日、三年生を送る会が行われました。1・2年生がお世話になった工年生に感謝を込めてイベントを開いてくれました。「感謝」の作品は青葉学級の皆さんが作成したものです。とても味わいのある作品です。



3月8日の給食は人気のカレーでした。スパイスから手をかけて作ってくれています。



3月8日、3年生を対象に「命の授業」が行われました。現役助産師さんをお招きして、「性」に関する大切な話をさせていただきました。



3年生はたくさんの時間をかけて卒業式練習を行いました。卒業式へ望む気持ちを確認し、細かい動きなどを丁寧に確認しました。